



# 西口地区の価値を最大に生かすために

海老名駅西口土地画整理組合 副理事長  
一般社団法人海老名扇町エリアマネジメント 代表理事  
山崎 日出雄さん



西口地区の土地画整理事業で中心的な役割を担ってきた山崎日出雄さん。事業の意義や、これからの西口地区のまちづくりについて聞きました。



海老名駅西口開発の話は30年ほど前からありましたが、平成24年に都市計画が変更され、一気に具体化するようになりました。地権者の皆さんには区画整理事業の趣旨を理解していただけたので、比較的スムーズに事業のスタートを切ることができました。首都圏で鉄道3線が集まる駅の周辺に大きな土地があるというのとはとても貴重ですから、次世代のためにその価値を最大限に生かしていきたいという気持ちで、組合としても取り組んできた事業です。

まちが整備されて、それで完了というわけではありません。より良い環境にするために、積極的にまちづくりを進めていく責任が私たちにはあります。そのために、今後のまちの管理・運営を行う「海老名扇町エリアマネジメント」という一般社団法人を立ち上げました。西口地区に誕生した扇町は、県内でも市内でも中央に位置します。私たちが「扇の要」として、しっかりとまちに関わっていこうと思います。将来は、相模三川公園やサイクリングロードでのレジャー、田んぼや畑での農業体験といった活動ともリンクさせて、家族揃って楽しめるようなエリアにしていきたいですね。

# さらに魅力的になった海老名に期待

国分南在住 富田 高広さん

これまで海老名駅を利用してきた市民の一人でもあり、24年前のJR相模線電化開業の日には海老名駅で一日駅長を務めた富田高広さん。西口地区に誕生した新たなまちへ期待することを聞きました。



▲運転士に花束を贈る「ちびっ子一日駅長」の富田さん(平成3年3月16日撮影)。今号の表紙には、家族3人で登場していただきました。

私は、平成3年3月16日のJR相模線電化開業の日、海老名駅で「ちびっ子一日駅長」を務めました。その日は自分の6歳の誕生日で、運転士さんに花束を渡したことを覚えていますが、その後は、高校時代は雨の日に、専門学校時代は毎日の通学でJR相模線を利用していたので、JR相模線海老名駅は自分にとってなじみのある場所です。それだけに、駅の西口に新たなまちが誕生したことはとても感慨深いですね。

私もそうですが、就職などで海老名を離れた後、また海老名に戻ってくる仲間が多いんですよ。それは、海老名に魅力があるという証。今は自分も親になり、海老名で子育てしています。暮らしてすさは日々感じていますが、新しい中央図書館にはキッズライブラリーができるなど、子育て世代としてもさらに魅力が加わった感があります。



## 海老名駅の変遷

大正末期から相次いで建設されてきた海老名市内を通る各鉄道。建設当初は相模川の砂利運搬を主な役割としていました。戦後、高度成長期には各鉄道間の乗り換えの改善や駅施設の拡張整備が行われていきました。

大正10年 相模鉄道(現JR相模線)茅ヶ崎～寒川間と貨物線開通

大正15年 神中鉄道(現相模鉄道)二保川～厚木間開通

昭和2年 小田原急行鉄道(現小田急電鉄 新宿～小田原間開通)

昭和6年 相模鉄道(現JR相模線)全線開通

昭和8年 神中鉄道(現相模鉄道)全線開通

昭和16年 神中鉄道(現相模鉄道)海老名駅設置

昭和18年 相模鉄道(株)が神中鉄道(株)を吸収合併

昭和19年 国鉄が相模鉄道(現JR相模線)茅ヶ崎～橋本間と貨物線を買収



▲社家付近を走る相模線最後の蒸気機関車(昭和40年)

昭和47年 小田急電鉄の海老名電車基地使用開始



▲空から見た海老名駅周辺(昭和47年)



▲駅前工事中の海老名駅(昭和48年)

昭和48年 小田急・相模線海老名駅を現在の位置に移転



▲工事中の東口と、奥にはJR相模線の駅(昭和62年)  
▲JR相模線海老名駅開業式典(昭和62年)

昭和62年 国鉄(現JR)相模線海老名駅開業。国鉄民営化

平成3年 JR相模線電化開業



▲自由通路開通式典(平成14年)

平成14年 海老名駅東口の自由通路開通。複合型商業施設「VIA WALK」開業

平成22年 海老名駅舎内の自由通路整備が完了